

平成28年度

事務事業評価表 A (平成27年度の実績評価)

記入年月日
平成 28 年 3 月 5 日

事務事業名	こども伝統文化教室	事業区分		担当	
		新規/継続	継続	事務事業No.	030201000623
		単独/補助	単独		090601
政策体系	総合計画の施策名	O302 生涯学習・芸術文化活動の推進		所属課	生涯学習課
	政策名	O3 豊かな心と生きがいを育む教育・文化づくり		グループ	文化振興G
	施策名	O2 生涯学習・芸術文化活動の推進			
	基本事業名	O1 生涯学習及び芸術文化活動機会の充実			
財務会計上の位置付け		事業期間			
予算科目	会計	款	項	目	事業細
	01	10	05	03	01 00
法令根拠	一般会計		単年度繰返し (年度~)		
	文化振興事業		→ 期間限定の場合、総投入量を(3)投入量の右側に記入		

[Do] 1. 事務事業の現状把握 (その1)

手 段	①事務事業の概要 (事務事業の全体像)		②担当が行う業務の内容・やり方・手順	
	<p>本事業は、次代を担う子どもたちに日本の歴史と伝統の中から生まれ、大切に守り伝えられてきた伝統文化を将来にわたって確実に継承し、発展につなげる。子どもの頃から伝統文化や文化財に親しむ機会を充実させることで、豊かな人間性を養い、育むことを目的とし伝統文化に関する活動している市内の団体に助成し、市の文化振興に寄与する取り組みを実施する。桜川市文化協会、伝統民俗芸能連絡協議会に属し伝統文化に関する事業の実施経験を有する者を代表者として計画的、継続的に体験・修得できる取り組みを行い修得した芸芸等の成果発表会等を開催する。</p> <p>本事業を実施することで伝統民俗芸能団体の交流や地域間の連携なども考えられる。対象の分野も、茶道・華道・将棋・短歌・俳句・詩吟・日本舞踊・邦楽・民俗芸能・囲碁に加え、書道等の分野にも声をかけ実施に向けアドバイスをを行う。</p>		<p>こども伝統文化教室開催団体を募集する。募集案内作製、実施申請の取りまとめ、広報「おしらせ版」へ募集案内掲載取りまとめ。</p> <p>採択団体を決定後、補助金交付申請・補助金交付(各団体)を行う。依頼により修了証書の作成、開級式・閉級式に出席、実績報告の提出依頼。</p> <p>平成27年度は「いけばなこども教室」「西小高けら踊りこども教室」「青木大杉ばやしこども教室」「囲碁教室」の4団体へ助成。市民祭や分館祭に参加したり、地域のお祭りに参加し成果を披露、伝統民俗芸能の積極的な継承活動となった。</p>	

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移

①手段 (担当者の活動内容)	④活動指標 (活動量を表す指標)	単位	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
			(実績)	(実績)	(計画)	(目標)	(目標)
開催団体を募集。募集案内作製、実施申請の取りまとめ、募集案内掲載取りまとめ。採択団体を決定後、補助金交付申請提出依頼、補助金交付(各団体)、修了証書の作成、開級式・閉級式に出席、実績報告の提出依頼	教室開催に応募する団体数	団体数	3.00	4.00	4.00	4.00	4.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
②対象 (誰、何を対象にしているのか)	⑤対象指標 (対象の大きさを表す指標)	単位	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
文化協会・伝統民俗芸能連絡協議会団体、小学生、中学生。	伝統文化団体参加数	団体	29.00	29.00	29.00	29.00	29.00
	伝統文化教室実施数	団体	7.00	4.00	6.00	6.00	6.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
③意図 (この事業によって対象をどう変えるのか)	⑥成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	単位	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
伝統文化の保存継承。人材育成および文化団体の保存意識の向上	参加児童・生徒数	人	69.00	71.00	80.00	80.00	80.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

(3) 投入量(事業費)の推移

投入量	事業費	財源内訳		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	期間限定総投入量
				(実績)	(実績)	(計画)	(目標)	(目標)	
人件費	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	0	0
			県支出金	0	0	0	0	0	0
			地方債	0	0	0	0	0	0
			使用料・手数料	0	0	0	0	0	0
			その他	0	0	0	0	0	0
			一般財源	160	65	160	160	160	160
			事業費計(A)	160	65	160	160	160	160
人件費	正規職員従事人数	人	0.00人	0.00人	0.00人	0.00人	0.00人	0.00人	
			※へ業務時間	120.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
			人件費計(B)	348	0	0	0	0	
トータルコスト(A)+(B)			508	65	160	160	160		

事業費の内訳	27年度事業費 実績(千円)			28年度事業費 予算(千円)		
19 負担金補助及び交付金	65			19 負担金補助及び交付金	160	
合計	65			合計	160	

(4) 当該年度の実施内容

実施内容	28年度の事業内容	29年度の事業内容	30年度の事業内容
<p>※下記に該当する事業は、年度ごとに事業内容を記入する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要事業 ・市長マニフェスト ・未来PJ事業 ・合併建設計画事業 			

事務事業名	子ども伝統文化教室	事務事業No.	30201000623	所属課	生涯学習課
-------	-----------	---------	-------------	-----	-------

【Do】 1. 事務事業の現状把握(その2)

(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか? 文化庁の伝統文化子ども教室の補助金が終了した団体を対象に平成22年より開始。桜川市として子ども伝統文化教室助成金募集を案内。指導者からの開催依頼もあり意欲がみられ、参加者も増加した。祖父母、保護者からの期待もみられる。
(6) この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者)からどんな意見や要望が寄せられているか? 伝統文化の後継者育成事業は単年度で出来るものではない。そのため事務関係者からは、継続した申請が行われており、継続参加している小学生も多い。事業関係者も内部講師が行うことで、後継者育成への意欲も大きい。
(7) 前回の事務事業評価に対する改革・改善の具体的内容

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評価項目

目的妥当性	①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか?意図することが結果に結びついているか?) <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	生涯学習機会の充実、市民文化活動の促進、青少年の健全育成に整合する
	②公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか?税金を投入して、達成する目的か?) (法定受託事業はその名称) <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	市の伝統文化の向上、振興のために、後継者育成事業の活動経費として妥当である。
有効性	③成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?) <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	子ども教室への参加者が年々低学年になってきている。小学生を取り巻く状況が変わってきており、部活動、スポーツ少年団などにより参加者が少ないため、土曜日などに子育て支援などと提携して開催することも考慮すべきである。
	④廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?) <input checked="" type="checkbox"/> 影響有	文化協会の人材育成意欲の低下、伝統文化の停滞。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性がありますか? (市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) <input checked="" type="checkbox"/> 連携ができる	子育て支援や放課後子ども教室、子供会活動などと連携できる
効率性	⑥事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか?やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか?) <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	内部講師の講師料は対象外としたため、事業費は必要経費のみとなり、最小限の事業である。
公平性	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっているか?) <input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である	材料費、講師謝礼の一部負担は受益者に負担させることは止むを得ない。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)																					
①目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	参加者は低学年が多く、参加費も実費のみで伝統文化に触れ、継続することも多い。効果はみられるが、参加者の負担が大きくなると、参加の減少化もある。いけばな、茶道だけでなく他の部門を広げ、日本文化を体験できる機会が多くなった。より多くの参加者が得られるよう、土曜や日曜ばかりでなく、放課後など学校教育との連携も考えられる。																					
(3) 今後の事業の方向性	(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																					
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止	(複数回答可) <input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input type="checkbox"/> 効率性の改善 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input checked="" type="checkbox"/> 連携ができる																					
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 子どもたちが参加できる伝統文化教室の機会と内容の充実をはかる。子どもを対象とした、講座を担当する係りとの連携を図る。	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		○																			
	低下																					
(6) 事務事業優先度評価結果																						
成果優先度評価結果	②																					
コスト削減優先度評価結果	⑨																					

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)
課長確認後の評価 <input checked="" type="checkbox"/> B A:継続(現状維持) C:終了、廃止、休止 B:継続(改革改善を行う) D:2次評価へ提出	確認欄 <input type="checkbox"/>